

<フィリピン事業> 「地域での助け合いを通してコロナ禍を乗り切る」

ICAN フィリピン事務所
Edgar Gulla
～プロフィール～
フィリピンの他 NGO
で路上の子どもの
デイケア施設担当
を経て、2016年9月
より現職。

世界的にワクチン接種が進んでいますが、コロナ禍終息の兆しは未だ見えず、フィリピンにおいても予断を許さない状況が続いています。フィリピンのワクチンの完全接種率は全人口の約10%（7月末時点）にしか達しておらず、7月中旬より新規感染者数は日々増加しています。（※）長期化するコロナ禍により、日々の食事を確保するのが困難な住民が多数いる状況を受けて、フィリピンでは「コミュニティパントリー（地域食品庫）」の取り組みが広がっています。それは、住民自身が自前や寄付で集めた食料や衛生用品等を机に並べて、他の住民に無料で提供する活動です。フィリピンでは、助け合いを意味する「バヤニハン」という精神が昔から大切にされていますが、それは助け合いの精神を体現した活動と言えます。一人ひとりの「できること」を持ち寄るというアイキャンの名前に込められた想いにも共通していたため、アイキャンもこの活動へ参加することに決めました。

7月22日と24日に、マニラ市で最も生活が厳しいトンド地区、及び路上の子どもが多く生活するエスコルタ地区でコミュニティパントリーを実施し、食料（米、肉、野菜）に加えて、マスクやアルコール消毒液を提供しました。実施前には、村役員や住民と協議し、各々の役割を明確にしました。アイキャンは物資を購入し、各地区に届け、住民が仕分けと梱包作業、事前の半券配りと当日の運営を担いました。村役員は住民へのマスク着用とソーシャルディスタンス徹底の呼び掛けや、お粥の炊き出し等、それぞれが「できること」を持ち寄りしました。本活動は、コロナ禍が始まって1年以上経過した今、地域内に「自立・協同・共生」の意識を醸成する目的で計画しました。コロナ禍で住民や路上の子どもと活動する中で、生活が厳しくても、仲間内で食料を分け合う等、助け合う姿を見ってきました。どんなに大変な状況でも、誰かの支えがあれば、人々は困難を乗り越える力を持っています。その助け

合いを仲間内だけでなく、地域全体に広げ、先の見えないコロナ禍を乗り切るために、今回はアイキャン主体の物資配布ではなく、村と住民の協働による活動を実施しました。当日は、ある住民が机の上に設置された募金箱に寄付を入れながら、「ずっと大変な状態が続いているけど、お互い助け合うことで、何とかなる。」と声をかけてくれました。

今後も村や住民とともにコミュニティパントリーを実施していく予定です。誰もが大変な状況にあるからこそ、より一層助け合いが必要だと感じます。この活動を通して、住民の生活を支えると同時に、地域主体でこのような助け合いの活動を活性化させていきたいと考えています。そのために、皆さまとも「できること」を共有できたら嬉しく思います。（※8月6日から20日まで、マニラ首都圏はロックダウン）

**フィリピン事業**

7月14日/サンマテオ（フィリピン）

カリエメンバが「子どもの家」の子どもへ研修を実施

7月14日に、カリエメンバ3名が、「子どもの家」の9歳～11歳の子ども14名に対して、リーダー育成研修を実施しました。カリエメンバのリカさんは、「自分たちは、まだ小さかった時、アイキャンスタッフからトレーニングを受けたが、今はこのようにトレーナーとして教えていると思うと感慨深い。」と嬉しそうに話してくれました。

ジブチ事業

7月/マルカジ・ホルホル（ジブチ）

「アニメーター研修」に27名が参加

ジブチ国内の2つの難民キャンプにおいて、「子どもの広場」の活動を支える青少年ボランティア（アニメーター）計27名へ研修を行いました。子どもの権利について学んだ参加者からは、「子どもたちが暴力、児童労働、差別などの問題に直面しているときは、まずはアイキャンスタッフに報告することが自分のできることだと分かった。」等の感想が聞かれました。

能力強化事業（国際理解教育）

7月27日/名古屋（日本）

SDGsに関する勉強会

7月27日、聖霊中学高等学校においてSDGsに関する勉強会を実施し、生徒36名が参加しました。勉強会では、SDGsに関する基礎的な話から、具体的な取り組み方法等をお伝えするとともに、クイズを用いて少しでも身近に感じてもらうようにしました。「SDGsについて詳しく知らなかったけど、理解を深めることができた。」との声をいただきました。

ボランティア・寄付推進事業

7月28日/名古屋（日本）

フェアトレード商品を購入いただきました

愛知県立常滑高等学校の生徒5名と教員1名が、日本事務局を訪れ、学園祭で販売する予定の商品を購入いただきました。購入前にはアイキャンのフェアトレード事業の説明や、商品の紹介を行い、「どうして最初の作品がクマだったのですか？」等の質問をいただき、事業の歴史や生産者の想いに理解を深めた上で、自分自身で商品を選んでいただきました。